

賛否の中 安倍元首相国葬



日本武道館で行われた安倍元首相の国葬=27日午後2時18分、東京都千代田区で(代表撮影)

安倍晋三元首相の国籍が「十七日、東京・日本武道館で執り行われた。」一百十を超える国と地域、国際機関の代表団を含め、政府発表によると国内外から四百八十三人が参列。ただ法的根拠や概算十六億円超の国費支出を巡って世論の賛否が割れた。事実上の弔意の強制につながるとの批判も根強く、一部の野党は欠席した。警察は最大約一万人を投入し、厳戒態勢で警備や要人警護に注力だった。首相経験者の国籍は戦後一例目で吉田茂元首相以来、五十五年ぶりとなつた。

国内外から4183人参列

日本は「第三の陣」をして全額国費で贈る葬儀。戦前は勅令の「国葬令」が法的根拠で、皇族以外は國に偉大な功効があつた者を対象とした。國葬令は現行憲法施行に伴い失効。戦後の貴相経験者は内閣と国民党の合同葬が近年の主流だったが、岸田文雄首相は安藤三元首相についての在職が政史上最长の8年8ヶ月(選舉運動中の非業の死)などを理由に国葬とする方針を示した。費用額は宮城周辺の整備費を含め概算18億6千万円で、政府は事後に一連の対応を検討する予定。

政府は中央省にて平次の
指揮と統一の下を実施した。
「國全体として弔意を示す」（岸田文雄首相）とし
ながらも、世論の反発を懸
念。教育費削減などには協
力を要請せず、国民にも弔
意の表明を求めなかった。
葬儀費負担の真相は弔辞
で、安政院の時代長ととな
った首相在任期間に触れ

「臣はこの御代をもつて、達成した功績によりあはだな記憶する」と述べた。友人代表の斎藤健前首相も追悼の辞を述べた。天皇陛下の勅使、皇后宮使らの持つ後出席した皇族の供は、語り興味の昭恵夫人はじめ

國務には秋篠宮、夫婦の皇族七人のほか、三種の儀と国会議員、都道府県知事ら計三十人超が参列し、国外関係ではハリス米副大統領やイングのモチ、イ首相ら首脳級五十人程度と名寄せられて計七百人程度が出席。立憲民主党は執行役員が欠席し、井辻寛などは見知り合ひ参列を見送った。

安倍氏の進荷を乗せた松車は十七日午後、東京・霞ヶ谷の国際会議場を出発し、途中、防衛省に立ち寄った。自衛隊員は自衛出発時の儀

はや、沿道で敬礼する。前列「武道館剝離時に弔慰を示す」「弔砲」を行つたと約半三百九十九人が参加した。國葬は選舉到着後、午後二時過ぎに開式。默とうの後、安倍氏の生前の姿を壁像で流し、諱相うの弔碑で終りと続いた。四時間余りで終了した。